

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	21-061	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol abstinence and mortality in a general population sample of adults in Germany: A cohort study ドイツの一般成人集団における非飲酒者と死亡率に関するコホート研究		
執筆者		
John U, Rumpf HJ, Hanke M, Meyer C.		
掲載誌		
PLoS Med. 2021 Nov 2;18(11):e1003819. doi: 10.1371/journal.pmed.1003819.		
キーワード		PMID
非飲酒者 総死亡 心血管疾患 悪性疾患 コホート研究		8562854
要 旨		
<p>目的: 非飲酒者は、少量から中等量の飲酒者よりも死亡率が高いとする報告があるが、その原因となる因子は不明である。そこで、過去 12 ヶ月の非飲酒者における過去のリスク因子と、20 年間の総死亡、心血管疾患および悪性疾患による死亡の関連を検討した。</p> <p>方法: 北ドイツの一般住民から無作為に抽出された 18-64 歳に対し、1996-1997 年にベースライン調査を行い、2017-2018 年に生存状況および死亡診断書の情報を取得し (追跡期間中央値 20.6 年)、追跡可能であった 4,028 人を本研究の対象とした。ベースライン調査時に、アルコール使用障害スクリーニングテスト (AUDIT-C) により 12 ヶ月間前からの飲酒状況を評価するとともに、過去のリスク因子 (アルコール・薬物使用障害、危険な飲酒、節酒・禁酒の経験、喫煙歴、自己評価の健康状態が不良) を調査した。Cox 比例ハザードモデルおよびロジスティック回帰モデルにより、総死亡、心血管疾患および悪性疾患による死亡の性年齢調整ハザード比 (HR)・オッズ比 (OR) および 95%信頼区間 (CI) を求めた。</p> <p>結果: 非飲酒者 447 人のうち 405 人 (90.6%)は過去飲酒歴があった。過去のリスク因子が 1 つ以上ある非飲酒者は 322 人 (72.04%)であり、そのうち 114 人 (35.4%)にアルコール使用障害・危険な飲酒歴があった。また、非飲酒者の半数 (161 人)は過去にアルコールに関するリスクはなかったが、喫煙者であった。少量から中等量の飲酒者 (2203 人)と比較して、過去のリスク因子が 1 つ以上ある非飲酒者における総死亡の HR は、いずれも有意に高く、アルコール・薬物使用障害歴のある非飲酒者 (84 人)では特に、総死亡 (HR: 2.44, 95% CI: 1.68-3.56)、心血管疾患 (OR: 2.74, 95% CI: 1.33-5.65)、悪性疾患 (OR: 3.39, 95% CI: 1.76-6.53) による死亡リスクが高かった。過去のリスク因子がない非飲酒者 125 人 (非飲酒者のうち 28.0%) は、少量から中等量の飲酒者と比較して、総死亡、心血管疾患および悪性疾患による死亡リスクの有意な上昇は認めなかった。</p> <p>結論: 少量から中等量の飲酒者と比較した死亡リスクは、過去のリスク因子が 1 つ以上ある非飲酒者で高く、アルコール・薬物使用障害歴のある非飲酒者において特に高かった。一方、過去のリスク因子がない非飲酒者では差がなかった。健康を理由に飲酒を推奨することには否定的な結果となった。</p>		